

✿鶴岡の伝統お雛菓子

きらびやかなお雛様に我が娘の無病息災を託し、多幸を祈る「雛祭り」。干菓子・生菓子・飾り菓子を供えるが慣習があります。山海の幸、花鳥風月をかたどったお菓子は、伝統と職人達の技が凝縮されています。この時期、鶴岡市内の菓子店には色鮮やかな雛菓子が一斉に並びます。

◆梅津菓子舗	〒997-0034 鶴岡市本町二丁目 8-16	☎0235-22-7348
◆菓子の梅安	〒997-0831 鶴岡市大西町 19-4	☎0235-22-2147
◆遠州屋	〒997-0034 鶴岡市本町三丁目 3-22	☎0235-22-1414
◆木村屋	〒997-0028 鶴岡市山王町 9-25	☎0235-22-4530
◆久栄堂菓子舗	〒997-0034 鶴岡市本町三丁目 14-22	☎0235-22-2034
◆信濃屋菓子店	〒997-0032 鶴岡市日吉町 6-24	☎0235-23-2366
◆住吉屋菓子舗	〒997-0032 鶴岡市上畑町 10-1	☎0235-22-5227
◆鶴岡飲料(株)港屋	〒997-0815 鶴岡市外内島明神川原 212	☎0235-22-1955
◆セレン・ドゥ・つるや	〒997-0813 鶴岡市千石町 2-21	☎0235-23-2235
◆福田屋	〒997-1121 鶴岡市大山中道 139-21	☎0235-33-2229
◆藤田菓子舗	〒997-0034 鶴岡市本町三丁目 9-24	☎0235-22-1749

✿おひなさまのお話

●ひな人形・ひな祭・桃の節句

平安時代から、季節の変わり目には食物を供えて健康や幸福を祈る信仰がありました。これが節句(節供)です。3月の始め(3月3日)の節句に、紙で作った人形を神様に見たて、供物でもてなす行事があり、これに平安時代の貴族の少女が好んだ人形遊び「ひいなあそび」や、「天児(あまがつ)」「這子(ほうこ)」と呼ばれる人形を子供の枕元において魔よけにした習慣が混ざり合い、江戸時代に現在のようなひな祭りになりました。ひな祭りは最初は女の子の誕生とは直接関係なかったものの、江戸中期頃からは女の子の初節句を祝うものとなり、家々の楽しい年中行事として定着しました。明治時代になり、旧暦から新暦に変わりましたが、雪深い東北地方では今でも旧暦通り1ヶ月遅れの4月3日にひな祭りが行われることが多いようです。

●おひなさまいろいろ

有職雛(ゆうそくびな) 宝暦(1751~64)の頃に作られた、公卿の装束を有職故実にもとづいて正しく仕立てた雛。明治以降この名で呼ばれています。束帯につぐ衣冠や普段の直衣姿が多く、着せ替えを持つものもあります。公家や大名が特別に注文して作らせたのが始まりと言われています。

古今雛(こきんびな) 明和の頃(1764~1772)に、江戸池の端にあった人形問屋 大槌屋半兵衛が人形師舟月に作らせ、売り出した江戸製の古今雛。写実的で艶やかな顔が特徴的で、江戸ばかりではなく、京や大阪でもたちまち流行しました。現代雛のルーツとも言われています。

芥子雛(けしびな) 江戸時代中期以後に流行した 3寸(10cm弱)以下の寸法の極小型の雛。大型の雛が度重なる幕府の製作禁止令によって制限されたため、極小の雛人形や雛道具が作り出されました。芥子粒ほどの大きさが芥子粒のように小さいという意味でこの名が付けられました。

享保雛(きょうほうびな) 江戸中期、享保年間(1716~1736)頃流行したといわれる雛。この名称は明治時代になってからつけられました。豪華で重々しい様子と、能面のように静かで神秘的な表情です。男雛は束帯に似た装束、女雛は五衣・唐衣に似せた姿で赤い袴の中には綿をいれて大きくふくらませています。

●お内裏様のならべ方

江戸時代から大正時代まで、上位である左(向かって右)に男雛、右に女雛という形式が伝えられてきました。昭和3年(1928)、昭和天皇即位式が京都の紫宸殿で行われた時、洋装の天皇皇后の位置はそれまでとは逆になっていました。東京の雛人形界では、これを参考に左右を決めたとされています。京都では、現在も昔同様の並べ方しています。古いお雛様が多い当館でも、古式に倣った並べ方をしています。



致道博物館「鶴岡雛物語 2016」



会期：平成 28 (2016) 年 3 月 1 日 (火) ~ 4 月 3 日 (日)

会場：公益財団法人 致道博物館 御隠殿



酒井家は徳川四天王の一人酒井忠次を祖とし、三代忠勝は元和5年(1619)信州国松代(現・長野県)10万石を領しました。元和8年(1622)最上家の改易にと
もない出羽国庄内(現・山形県)13万8千石を賜って入部しました。天保11年(1840)幕府より長岡藩牧野家、川越藩松平家との三方国替を命ぜられましたが、善
政を慕う庄内の領民の反対によって撤回されました。十三代忠篤は江戸市中取締りの任にあたり、加増して17万石格となり、戊辰戦争時には徳川の譜代大名
として最後まで薩長軍に抗戦しました。庄内藩は三代忠勝から十三代忠篤まで約250年間続き、その後も旧藩主酒井家は鶴岡にとどまり、昭和25年に郷土文
化向上のために当館を設立しました。毎年、この鶴岡雑物語展では酒井家に伝来するお雛様と雛道具を公開しています。

❁出品目録

❁庄内藩酒井家のお雛飾り(酒井家蔵)

- ◆芥子雛(けしびな) (江戸時代後期・江戸製)
- ◆象牙(ぞうげ)立雛 (江戸時代後期)
- ◆有職(ゆうそく)雛 (江戸時代後期・京製)
- ◆有職稚児(ちご)雛 (江戸時代後期・京製)



❁庄内藩酒井家の雛道具

◆田安德川家葵紋入雛道具(江戸後期・江戸池の端七沢屋製・酒井家蔵)

- 道中揃え 牛車・女乗物・駕籠・花車・長持・鉢箱・茶弁当
- お部屋 三棚(黒棚・厨子棚・書棚)・本箱・文机・文箱・書見台・硯箱・脇息・冠台・刀掛け衣桁・広蓋・箆笥・
- 身だしなみ 手鏡・紙台・櫛台・姿見・湯桶・角だらい・耳だらい 小障子屏風・台火鉢
- 御飲食 食籠御膳・三組盃・酒器・重箱・三方・長柄銚子・たかつき・ひしもち台
- お遊び 三面(将棋盤・双六盤・碁盤)・三曲(琴・三弦・胡弓)・貝桶(貝合せ)・台子・茶道具
- * 田安德川家より九代忠徳の正室脩姫と十一代忠発の正室鎌姫がお輿入れの時に持参されたと伝えられています。

◆庄内藩酒井家酢漿草紋・熊本藩細川家九曜紋入雛道具(江戸中期・当館蔵)

- お部屋 厨子棚・黒棚・大角赤・小角赤・寄掛・十二の手箱・水引箱・大文箱・小文箱・色紙箱料紙箱・たんざく箱
- 身だしなみ 鏡台・耳手洗・はんぞう・御はぐろ箱・櫛箱・沈箱・角たらい・はらい箱・渡かね箱
- お遊び 将棋盤・貝桶(貝合せ)・硯箱・香道具
- * 熊本藩細川家より元禄2年(1689)六代藩主忠真の正室密姫がお輿入れの時に持参されたと伝えられています。

◆庄内藩酒井家裏紋・おもだか紋お雛膳揃え(江戸中期・当館蔵)

❁掛軸・屏風いろいろ

- ◆立雛図(当館蔵)酒井忠器(第10代藩主) 天明7(1787)~嘉永7(1854)
- ◆立雛図(個人蔵)酒井忠発(第11代藩主) 文化9(1812)~明治9(1876)
- ◆桜に小禽図(当館蔵)松村景文(京都出身)安政8(1779)~天保14(1843)
- ◆福寿草(当館蔵)狩野探瑠(鶴岡市出身)文政8(1825)~明治19(1886)
- ◆桜花春鳩図(当館蔵)橋本関雪(兵庫県出身)明治16(1883)~昭和20(1945)
- ◆立雛図(当館蔵)伊藤喜久井(鶴岡市出身)明治44(1911)~平成14(2002)
- ◆花鳥図屏風(個人蔵)横山華谿(京都出身)文化12(1815)~元治元(1864)
- ◆花鳥松竹図屏風(当館蔵)藤原守胤
- ◆金地松竹図屏風(個人蔵)狩野春笑 三代(文政2(1819)没)か四代(天保年中)のいずれかとされる
- ◆ひなまつり(個人蔵) 伊藤久美(神奈川県横浜市在住)
- ◆束帯・十二単衣 秋篠宮様ご婚礼衣装ひな型(当館蔵)
- ◆菊花蝶流水高時絵硯箱・料紙箱(個人蔵)
- ◆羽子板(義経千本桜/小督/鳴神)(個人蔵)

❁旧家のお雛様

- ◆享保雛(江戸時代後期・当館蔵)
- ◆享保雛-近衛家伝来-(当館寄託)
- ◆古今雛(江戸時代後期・当館蔵)
- ◆古今雛-隨身付き-(江戸時代後期・江戸製・当館蔵)
- ◆古今雛(天保15年(1844)・江戸製・当館蔵)
- ◆古今雛(大正時代・当館蔵)
- ◆古今雛(明治時代・当館蔵)
- ◆立雛(当館蔵)
- ◆三人三番(大正時代・京都 丸平大木人形店・当館蔵)
能演目のひとつ。「翁」を取り入れた式三番
- ◆猩々の舞(当館蔵)
能の演目の一つ。唐土潯陽江の霊獣猩々が酒に浮かれ能を舞い孝子高風を祝福する
- ◆神功皇后(当館蔵)
仲哀天皇の皇后。仲哀天皇の没後、懐妊のまま朝鮮半島に遠征し、帰国後に応神天皇を出産したといわれている
- ◆武内宿禰(当館蔵)、応神天皇(当館蔵)
大和朝廷の初期に活躍したという伝承上の人物。仲哀天皇に従って熊襲を征し、神宮皇后に従って朝鮮半島に遠征、幼帝応神天皇を助け偉功があったといわれている
- ◆槍持ち御所人形(当館寄託)
- ◆見立て皇帝御所人形-徳川家伝来-(当館寄託)



❁特別企画❁ 佳陽会日本画展

- | | |
|----------------|--|
| 特別出品 | ◆伊藤喜久井 「立雛」
◆酒井慎子 「雛図」、「牡丹図」
◆酒井忠明書・酒井慎子画 「立雛図」
◆太田澄子 「立雛」
◆石原和子 「立雛」 |
| 会員出品
(五十音順) | ◆遠藤正昭 「立雛」
◆久留晃子 「おひな様」、「水仙」
◆高力 朗 「水仙」、「ぼたん」
◆小林勇助 「早春」
◆庄司洋子 「おひな様(1)」、「おひな様(2)」
◆鈴木 康 「姉さま人形」、「牡丹」
◆茅野 淑 「紙雛」、「椿」、「菜の花」
◆星川富吉 「白もくれん」、「春の宵」
◆本間カズエ 「おひな様(1)」、「おひな様(2)」
◆松田美和 「岩根しぼり」 |
| 賛助出品 | ◆麻生哲朗 「庄内のお雛はん」 |